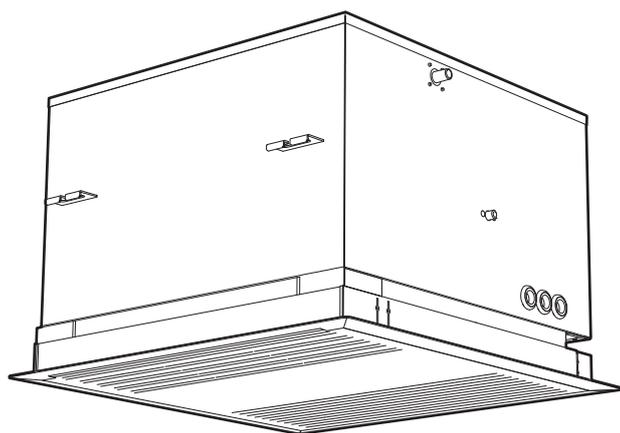


天埋カセット型、滴下浸透気化式加湿器

てんまい加湿器®

施工要領書



WM-VCJ2200
WM-VCJ2200A

- このたびはウエットマスター滴下浸透気化式加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。
- この施工要領書には、安全についての注意事項を記載しています。この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また、安全を確保するために、作業の前に必ずお読みいただき、正しい施工を行ってください。
- 施工後の各種設定作業は別冊「設定要領書」をご参照ください。
- 施工後の試運転作業は別冊「試運転作業要領書」をご参照ください。

VCJ2200 と VCJ2200A は構造、制御が異なるため、
現地での変更・切り替えはできません。

もくじ

安全のために必ず守ること…………… P.1

1 施工前の確認事項

1-1 梱包内容（付属品）の確認……………	P.3
1-2 使用場所の制限について……………	P.4
1-3 使用条件の確認……………	P.4
1-4 給水水質について……………	P.4
1-5 制御グループパターンの確認……………	P.5
1-6 客先ご用意の部材など……………	P.7

2 施工

2-1 取付……………	P.8
2-2 給排水配管……………	P.13
2-3 電気配線……………	P.17

3 各種図面

VCJ2200 結線要領図……………	P.19
VCJ2200 結線参考図……………	P.20
VCJ2200 ヒューミ付リモコン結線要領図……………	P.21
VCJ2200 ヒューミ付リモコン結線参考図……………	P.22
VCJ2200A 結線要領図……………	P.23
VCJ2200A 結線参考図……………	P.24
VCJ2200A ヒューミ付リモコン結線要領図……………	P.25
VCJ2200A ヒューミ付リモコン結線参考図……………	P.26

4 仕様

4-1 VCJ2200（標準仕様）……………	P.27
4-2 VCJ2200A（ヒューミディスタット内蔵仕様）……………	P.28
4-3 ヒューミ付リモコン……………	P.29

・本製品は給水装置の性能基準適合品（第三者認証品：（一財）電気安全環境研究所）で、水道管への直接連結が可能です。

給水装置の第三者認証について

水道法第16条に基づく給水装置の構造及び材質の基準に関する省令に対し、給水器具等の認証機関である一般財団法人 電気安全環境研究所（JET）で耐圧性能、水撃限界性能、逆流防止性能、負圧破壊性能などの性能基準への適合確認および生産工場の品質管理体制等の確認を行って認証を取得し、加湿器本体銘板に認証マークを表示しています。



安全のために必ず守ること

- ・この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、取り扱ってください。
- ・ここに記載した注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- ・誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

警告 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡、重症を負う可能性があるもの

注意 誤った取り扱いをしたときに、使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生に結びつくもの

・図記号の意味は以下のとおりです。

 必ず守る	 絶対しない	 触らない	 濡手禁止 絶対に濡れた手で触らない	 水濡禁止 絶対に水に濡らさない
---	--	---	---	---

警告

必ず守る **取付工事は製品添付の説明書類に従って確実に行う**
取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

必ず守る **取付工事は、専門業者に依頼する**
取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

必ず守る **高所作業時の安全を確保する**
高さが2メートル以上の箇所で行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

必ず守る **製品の大きさ、重さに注意する**
取付には製品を支持する揚重機等を使用し、作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

必ず守る **取付は、質量に十分耐える所に確実に行う**
強度が不足している場合は、落下や転倒等による事故の原因になります。

必ず守る **工事部材は付属品および指定の部材を使用する**
寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、落下・水もれ・感電・火災などの原因になります。

必ず守る **電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工する**
電源回路要領不足や取付不備があると感電・火災の原因になります。

必ず守る **電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する**
接続や固定が不完全な場合は、発煙、火災の原因になります。

必ず守る **加湿器元電源には、必ず加湿器専用の漏電ブレーカを取り付ける**
漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になります。

必ず守る **定格電圧、制御容量範囲内で使用する**
誤った電源で使用すると感電・火災などの原因になります。

必ず守る **アース接続（D種接地工事）を必ず行う**
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

必ず守る **活線作業を行う際は、絶縁用保護具を着用するか、活線作業用器具を使用する**
適切な保護具、器具を使用しない場合、感電の原因になります。

必ず守る **作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用してください**
やけど・けがの原因になります。

絶対しない **電気・電子機器等、濡れて困る物の上に加湿器を設置しない**
漏電火災や事故の原因になります。

絶対しない **改造はしない**
故障や水もれ・感電・火災の原因になります。

水濡禁止 **加湿器本体・リモコンスイッチに水、液体をかけないこと**
ショート・漏電・感電・事故・発煙・火災の原因になります。

濡手禁止 **濡れた手で電気部品に触ったり、スイッチ・ボタンを操作しない**
感電・事故・発煙・火災の原因になります。

接触禁止 **運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触らない**
やけど・感電の原因になります。

注意



水道法、消防法等に規制される部材の取扱については、専門業者に依頼する

必ず守る 正しい取り扱いがされない場合、法令違反になることがあります。



上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工業者が施工する

必ず守る 正しい施工がされない場合、水もれや、水質悪化の原因になります。



給水の水質は、水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水を使用する（上水道の使用を推奨）

必ず守る 水質が不適当な場合は、室内空気の汚れの原因になります。



凍結の恐れがある地域では、必ず凍結防止工事を行う

必ず守る 配管・減圧弁などが破裂し、水もれの原因になります。



給排水配管は、本書にしたがって確実に給水・排水するように配管し、結露が生じないように断熱する

必ず守る 配管工事に不備があると水もれの原因になります。



製品の運搬は十分注意して行う

必ず守る 原則二人以上で行ってください。ケガや落下による破損の原因になります。



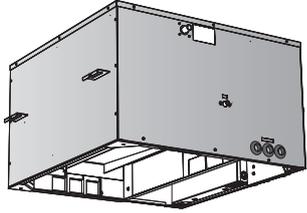
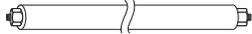
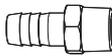
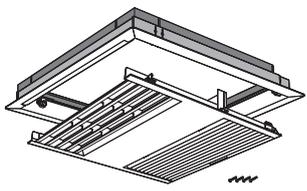
移動できないものの上に加湿器を設置しない

絶対しない 後々のメンテナンスができなくなる恐れがあります。

1 施工前の確認事項

1-1 梱包内容（付属品）の確認

●標準品の梱包内容（付属品）は以下のとおりです。開封後は直ちに内容を確認してください。

梱包内容 / 部品名称	仕様など	形状	個数
A 本体梱包			
①加湿器本体 VCJ2200 または VCJ2200A	ドレン排水用ポンプ内蔵 (VCJ2200A はヒューミディス タット内蔵)		1 台
②給水軟銅管	0.4 m リングジョイント式、 断熱材被覆付		1 本
③リングジョイント用断熱材	固定バンド 2 本付		2 枚
④給水接続継手	R1/2		1 ケ
⑤排水ホース	塩ビ φ20 × φ15 200mm ホースバンド 2 ケ付		1 本
⑥排水継手	R1/2 × φ16 ホース口		1 ケ
⑦説明書類*	施工要領書、設定要領書、 試運転作業要領書		各 1 冊
*取扱説明書は環境負荷軽減を目的に、製品には同梱しておりません。Web サイトよりダウンロードまたは弊社宛てご請求ください。			
B 化粧グリル梱包			
⑧化粧グリル	グリルパネルおよびグリル枠 取付ビス (M4 × 50、4 ケ)		1 式
C リモコンスイッチ梱包			
⑨リモコンスイッチ	初期設定操作説明書同梱	 標準リモコンスイッチ または ヒューミ付リモコン	1 ケ

1-2 使用場所の制限について

- 滴下浸透気化式加湿器は、下記のような現場では使用できないことがありますので、事前に当社宛お問い合わせください。
 - * 通気、設置場所に腐食性ガスが予想される場合
 - * 厨房、食品工場その他、通気に塩分やオイルミストを含むおそれのある場合
 - * 機械工場など、通気に金属製の塵埃を含むおそれのある場合
 - * 病院などの特殊空調

1-3 使用条件の確認

- 下記の使用条件などを満足していることを確認してください。

定格電源	AC100V (50/60Hz 共用)
本体周囲温湿度	5～40℃ (凍結しないこと)、80% RH 以下
吸込空気温度	5～40℃ (天井内本体周囲温度との差は 10℃以内のこと)
給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水 (下記参照)
給水圧力	0.05～0.5MPa
給水温度	5～30℃

1-4 給水水質について

- 給水の水質は、必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水をご使用ください(上水道の使用を推奨します)。本体内蔵のドレン排水用ポンプはレベルセンサ(電極ピン)により水位を検知するため、純水は使用できません。また、軟水器を使用すると軟質のスケールが析出し、飛散することがありますので、軟水を供給しないでください。

加湿モジュールは、使用によって汚れが堆積するため、加湿能力および加湿による気化冷却効果が徐々に低下します。以下の点にご注意ください。

- * 汚れの量は、水質や運転環境の様々な要因によって変化しますので定期的に監視し、汚れの質や量に応じた洗浄方法、洗浄サイクルを定めてください。水道法水質基準に準じている場合でも、全硬度、シリカ成分量などが多ければ、それだけ汚れやスケール成分の析出量も多くなる可能性があります。

参考として、(一社)日本冷凍空調工業会標準規格では「冷凍空調機器用冷却水水質基準 (JRA-GL02-1994)」において、冷却水の補給水の水質についてスケールの傾向に影響を与える項目と基準は、pH (25℃) : 6.8～8.0、導電率 (25℃) : 30mS/m 以下、酸消費量 (pH4.8) : 50mgCaCO₃/ℓ 以下、全硬度 : 70mgCaCO₃/ℓ 以下、カルシウム硬度 : 50mgCaCO₃/ℓ 以下、イオン状シリカ濃度 : 30mgSiO₂/ℓ 以下とされています。

ただし、上記基準を満たした水でも、地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水を利用した水の使用では、その含有成分の影響で早期のスケール発生やスケール飛散が生じる場合がありますのでご注意ください。

また、軟水器処理水および軟水器処理水と地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水との混合水は使用しないでください。軟質のスケールが析出し、飛散することがあります。

1-5 制御グループパターンの確認



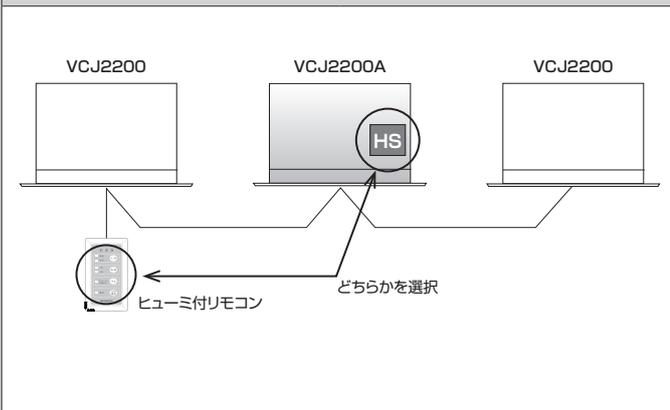
注意

事前に計画された制御方法・設置場所に設置する

❗ 事前に計画された制御方法・設置場所に設置されない場合、正常な湿度検知ができないことがあります。

- 本書は下記に示す 4 種類のグループ制御パターンを標準とし、標準制御する場合の説明を記載しています。
- ヒューミディスタット内蔵型 VCJ2200A は、グループ制御、加湿制御を行う際に設置上の制約があります。
- 下記の標準制御パターンに合致しないグループ制御を行う場合は追加で別途設定等が必要となりますので、次頁のフローチャートで計装パターンを確認してください。

標準グループ制御①



加湿器

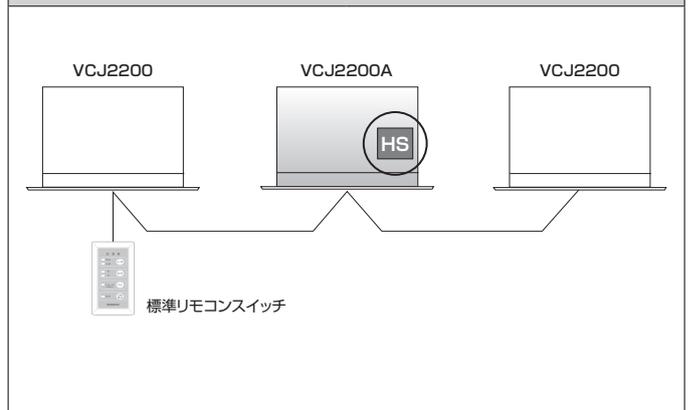
- ・ VCJ2200 (複数台)
- ・ VCJ2200A (1台)

リモコン

- ・ ヒューミ付リモコン

- 湿度検知
VCJ2200A に内蔵のヒューミディスタット、もしくはヒューミ付リモコンに内蔵のヒューミディスタットのどちらかを選択可

標準グループ制御②



加湿器

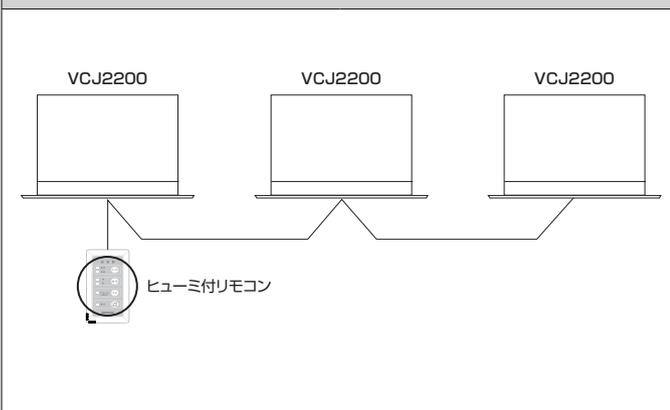
- ・ VCJ2200 (複数台)
- ・ VCJ2200A (1台)

リモコン

- ・ 標準リモコンスイッチ

- 湿度検知
VCJ2200A に内蔵のヒューミディスタットで湿度検知を行う

標準グループ制御③



加湿器

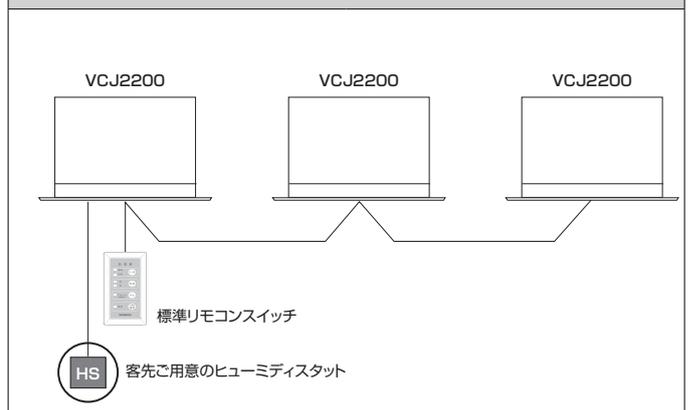
- ・ VCJ2200 (複数台)

リモコン

- ・ ヒューミ付リモコン

- 湿度検知
ヒューミ付リモコンに内蔵のヒューミディスタットで湿度検知を行う

標準グループ制御④



加湿器

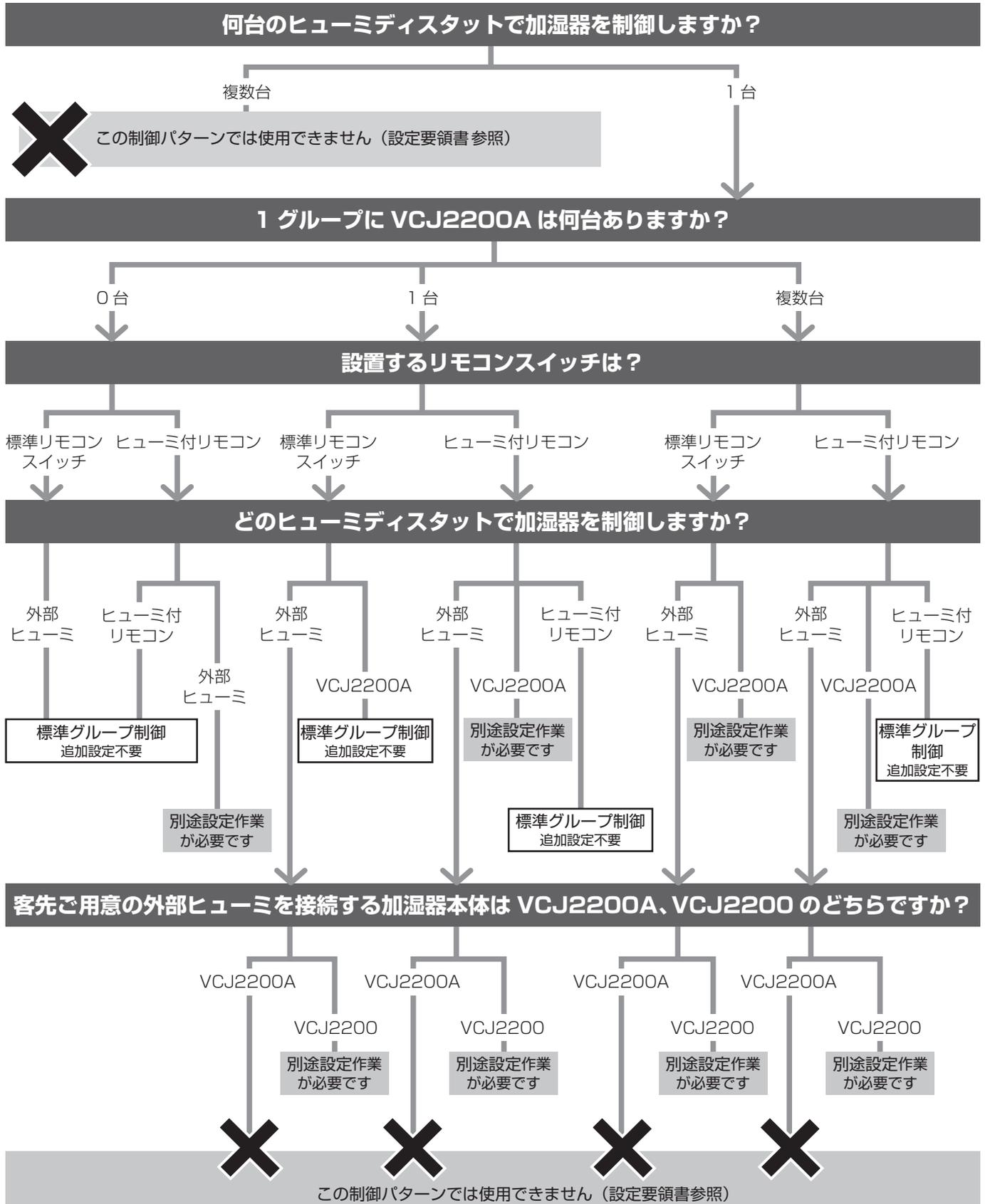
- ・ VCJ2200 (複数台)

リモコン

- ・ 標準リモコンスイッチ

- 湿度検知
客先ご用意のヒューミディスタットで湿度検知を行う

- 下記フローチャートに沿って該当する計装パターンを確認してください。
 - P.5 記載の「標準グループ制御」以外の場合、別途設定作業が必要です。
 - 設定作業の詳細については、別冊の設定要領書を参照してください。
- ※以下本項ではヒューミディスタット（湿度調節器）をヒューミまたは HS と記載します。



施工前の確認事項

施工

各種図面

仕様

1-6 客先ご用意の部材など

- 付属品のほか、下記の客先ご用意の部材などを確認してください。また下記以外の部材については、現場の必要に応じて適宜ご用意ください。

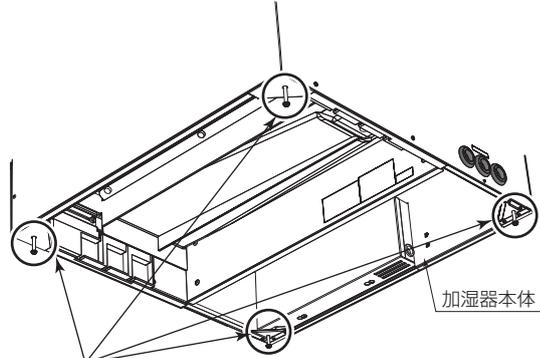
施工内容	必要部材など	注意事項	
加湿器本体取付	吊ボルト用アンカー・吊ボルト・ナット	<ul style="list-style-type: none"> ■加湿器本体の運転時質量は29kgです。荷重に十分に耐えられるだけの強度を確保してください。 ■吸入口、吹出口の位置を確認して施工してください。 	
給水配管	配管部材	<ul style="list-style-type: none"> ■施工後にもフラッシングが行えるように、必ずフラッシング用バルブをご用意ください。加湿用給水配管は暖房加湿ではシーズンオフには通水がないため管内の腐食が発生しやすく、また配管残留水の加湿器への流入防止の意味からも、施工当初に限らずフラッシングが必要になります。 ■本加湿器は給水器具等の認証品です（第三者認証品）。上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工し、当該自治体（水道事業管理者）などで指定された給水配管材料をご使用ください。 ■給水配管の施工に配管シーラントを使用する場合、配管シーラントメーカーの取扱上の注意に準拠してお願いします。また、十分なシーラント乾燥時間を確保してください。塗布量が多かったり乾燥が不十分な状態で通水すると、シーラントが給水に混ざる形で加湿器本体内に流入することになり、加湿器内でのシーラント固化により故障の原因になります。また、配管シーラントには有機溶剤成分が含まれているため、加湿器に流入した場合は構成部品に悪影響を及ぼすことがあります。加湿器への通水の前には、縦配管のフラッシングのほか、加湿器給水配管管末のフラッシング用バルブ等から十分なフラッシングを実施し、フラッシング実施後の水が無色透明、無臭であることを確認してください。 	
	給水サービス弁	<ul style="list-style-type: none"> ■保守点検作業のため、必ず加湿器1台に1ヶ所つけてください。 	
	保温材	<ul style="list-style-type: none"> ■配管結露防止のため、必ず施工してください。 	
排水配管	配管部材	<ul style="list-style-type: none"> ■付属の排水ホース、排水継手、ホースバンドを必ず使用してください。 ■横引き配管の場合、異径ソケットなどを使用し、配管径は20A以上としてください。また、必ず1/100以上の先下がり勾配とし、先端は大気開放としてください。 ■排水配管を立ち上げる場合、立ち上げ配管は塩ビ管（呼び径13mm）またはホース（内径φ15）を使用してください。また、立ち上げ以後の横引き配管は配管径20A以上とし、1/100以上の先下がり勾配となるように施工してください。 	
	保温材	<ul style="list-style-type: none"> ■配管結露防止のため、必ず施工してください。 	
電気配線	各種配線材など	<ul style="list-style-type: none"> ■リモコンスイッチの取り付けにはJISボックス（JIS C 8340 適合品）が必要です。 ■下記の該当する組み合わせの各ページを参照し、誤配線や未配線のないように注意して確実に施工してください。 	
		VCJ2200 と標準リモコンスイッチの組み合わせ	P.19「結線要領図」、P.20「結線参考図」
		VCJ2200 とヒューミ付リモコンの組み合わせ	P.21「結線要領図」、P.22「結線参考図」
		VCJ2200A と標準リモコンスイッチの組み合わせ	P.23「結線要領図」、P.24「結線参考図」
		VCJ2200A とヒューミ付リモコンの組み合わせ	P.25「結線要領図」、P.26「結線参考図」
その他	天井面点検口	<ul style="list-style-type: none"> ■加湿器本体配管側の天井面に必ずつけてください。 	

2-1-2 化粧グリルの取付

- 化粧グリルは、本体の取付、給排水配管、電気配線の後、天井板を張ってから取り付けます。
- 化粧グリルは、図-5のようにグリル枠とグリルパネルで構成されています。

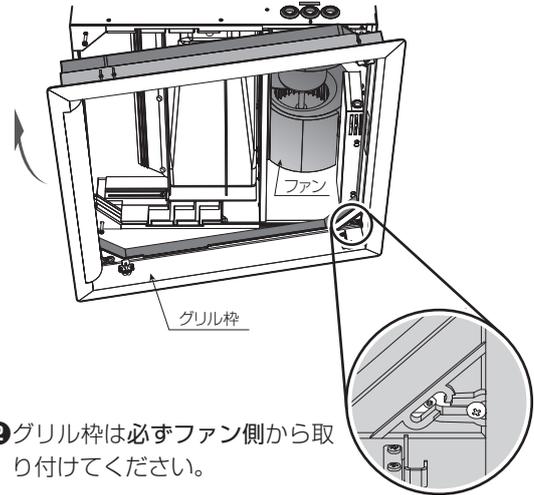
- ①加湿器本体の四つ角に化粧グリル付属のねじ(M4 × 50mm)を5～6回転ほどねじ込み、仮止めします(図-5 ①)。
- ②作業①で取り付けしたねじへ、グリル枠を引っ掛けて取り付けます。必ず、加湿器本体ファン側のねじへ取り付けてから、逆側を取り付けてください(図-5 ②～④)。

図-5 化粧グリルの取付 ※イラストは標準仕様で表していますが、VCJ2200Aの場合も同様です。

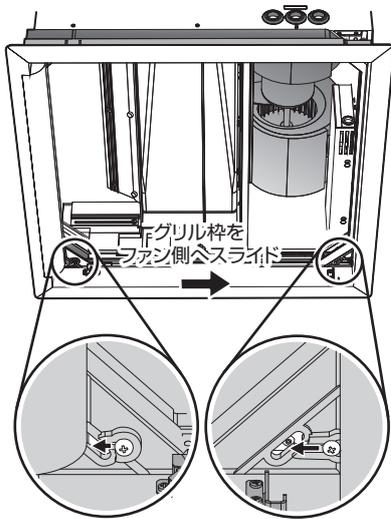


M4×50mm(付属)
5～6回転仮止め

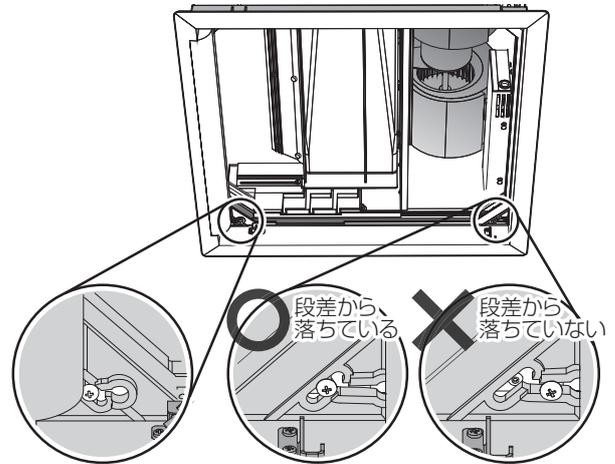
- ①加湿器本体の四つ角に化粧グリル付属のねじ(M4 × 50mm)を5～6回転ほどねじ込み、仮止めします。



- ②グリル枠は必ずファン側から取り付けてください。



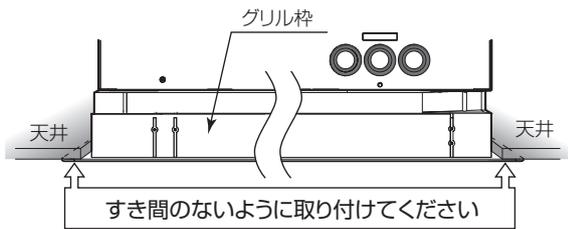
- ③グリル枠の四つ角すべてに仮止めしたねじをはめ込んだ後、ねじの頭が左側へ移動するようにグリル枠をファン側へスライドさせます。



- ④グリルがねじにひっかかり、本体から落ちない状態であることを確認してください。ファン側のねじは、必ず段差から落とした状態としてください。

- ③グリル枠を取り付けた4箇所のねじを、グリル枠と天井面に隙間がなくなるまで調整しながら締めてください(P.10 図-6)。その際、本体とグリル枠の間のスポンジパッキン(4面)を内側から外側へ軽く押し、本体内に突出しないようにします(P.10 図-7)。

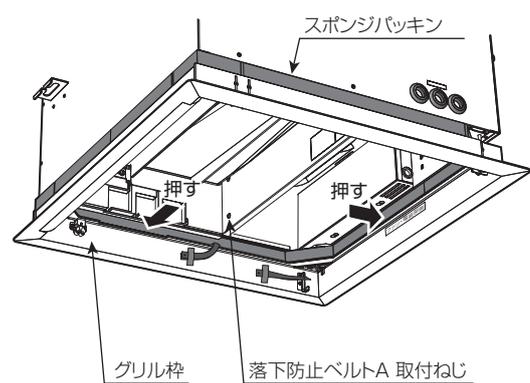
図-6 グリル枠と天井のすき間調整



締めすぎ厳禁

ねじを締めすぎると、グリル枠が破損したり、変形の原因となります。特に電動工具をご使用の場合は締めすぎにご注意ください。

図-7 スポンジパッキンの調整



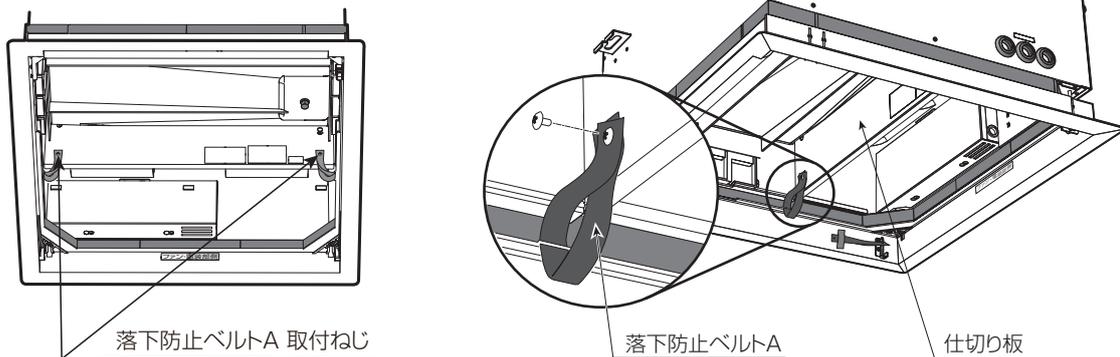
④図-8を参照し、グリル枠に取り付けられている落下防止ベルトAを加湿器本体内の仕切り板へ取り付けます(左右2箇所)。加湿器本体内の仕切り板に取り付けられている落下防止ベルトA取付ねじ(図-8)を外し、落下防止ベルトの穴に通して、元の位置へ取り付けてください。



落下防止ベルトAを必ず取り付ける

① 落下防止ベルトAは、加湿器本体内の仕切り板(左右2箇所)へ必ず取り付けてください。取り付けなかった場合、グリル枠落下事故の原因となります。

図-8 グリル枠 落下防止ベルトの取付



⑤グリルパネルの回転軸をグリル枠の金具にはめ込み、グリル枠へグリルパネルを取り付けます(図-9)。
⑥グリル枠に取り付けられている落下防止ベルトBを、グリルパネルのフック(左右2箇所)へ取り付けます(図-10)。



落下防止ベルトBを必ず取り付ける

① 落下防止ベルトBは、グリルパネルのフック(左右2箇所)へ必ず取り付けてください。取り付けなかった場合、グリルパネル落下事故の原因となります。

⑦グリルパネルを音がするまで確実に閉じます。

図-9 グリルパネルの取付

※イラストは標準仕様で表していますが、VCJ2200Aの場合も同様です。

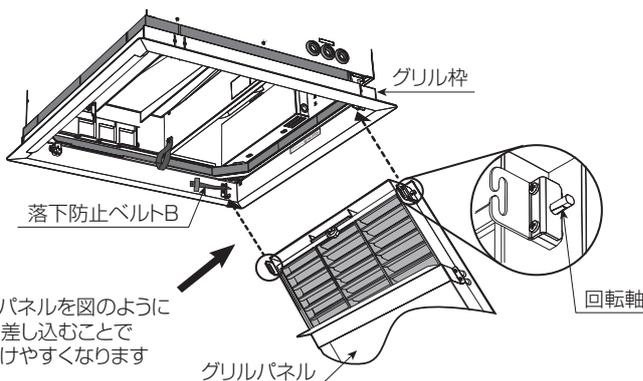
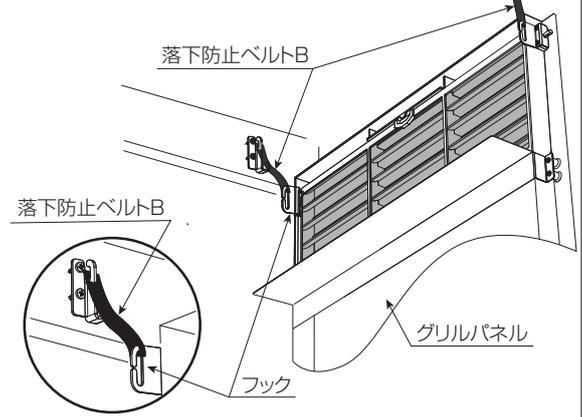


図-10 落下防止ベルトの固定

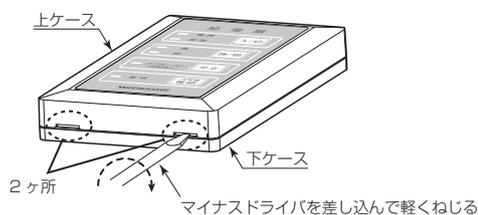


2-1-3 リモコンスイッチの取付と配線要領

- リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
- リモコンスイッチ取付にあたって、JIS ボックスをご用意ください(JIS C 8340 適合品、ピッチ 83.5mm、客先ご用意)。
- リモコンスイッチの取付と配線終了後はアドレス設定を行ってください(別冊の設定要領書を参照)。

- ①リモコンスイッチ下面の凹部に、マイナスドライバを差し込んで軽くねじり(2箇所)、上ケースを外してください(図-11)。
- ②壁面のJISボックスに下ケースを取り付けます。
 - 取付用のネジはJISボックスに合わせて現地でご手配ください。
 - ヒューミ付リモコンの場合、リモコンスイッチのサイドスイッチ操作と湿度検知に影響するため、壁面へ取り付ける際は左側面から50mmの空間を空けてください。
- ③配線引込穴から配線を引き込み、リモコンスイッチ基板の端子に接続します(図-12)。
 - 線材は0.5～0.75mm²のシース付きビニルコードまたはケーブルをご使用ください(客先ご用意)。
 - 配線はM3ねじ用裸丸端子を使用し、リモコンスイッチ基板の端子C1、C2に配線し、C1、C2が接触しないように取回してください。また、端子台が破損しますので、インパクトドライバで締め付けしないでください。
 - リモコンスイッチ基板の端子C1、C2と加湿器本体の端子C1、C2を接続してください(C1とC2の極性はありません)。
 - 露出配線を行う場合は、P.12 図-13をご参照ください。
- ④配線を挟まないように注意してリモコンスイッチケースを元通り閉じてください。

図-11 リモコンスイッチケースの開け方



ケースの損傷に注意

リモコンスイッチケースを開ける際は、マイナスドライバの先にウエスを挟むなどの養生を行い、ケースの破損に注意してください。



基板の損傷に注意

リモコンスイッチ基板は上ケースに付いています。ドライバ等で基板を傷つけないように注意してください。

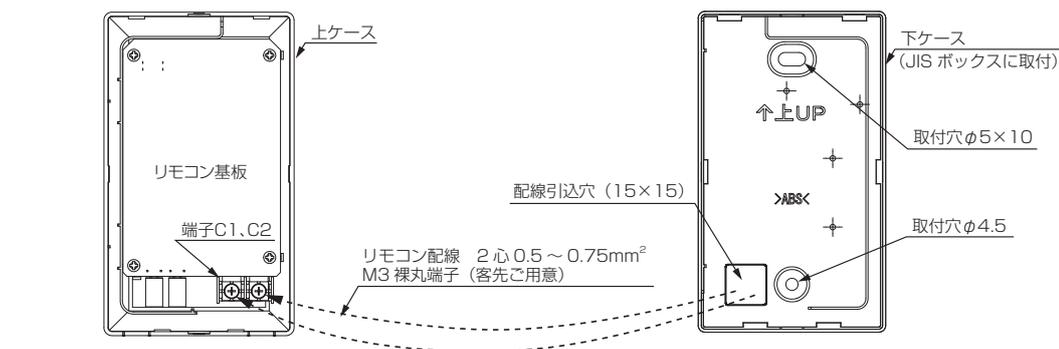
基板の短絡に注意

基板にゴミあるいは水分などが付着しないように注意してください。

※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

図-12 リモコンスイッチの取付と配線要領

標準リモコンスイッチの場合



ヒューミ付リモコンの場合

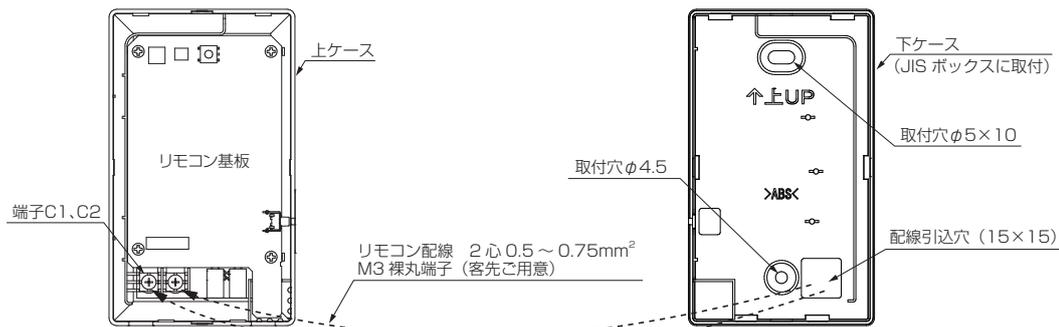


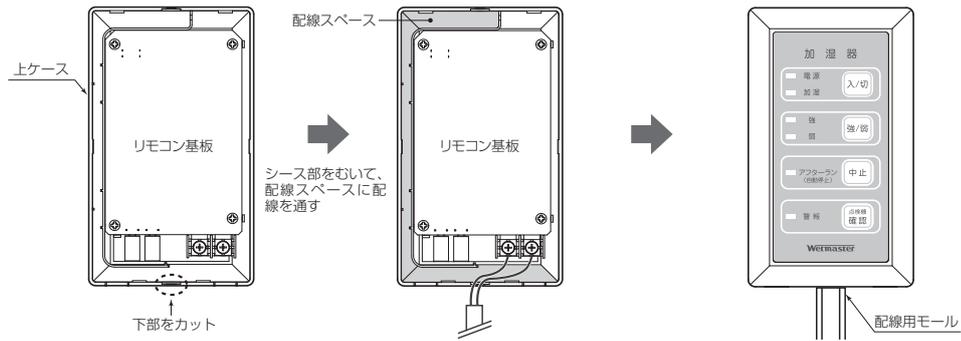
図 -13 露出配線を行う場合

●配線方向は P.11 の後方引き込みの他に、下記の方法で下方引き込みまたは上方引き込みとすることが出来ます。

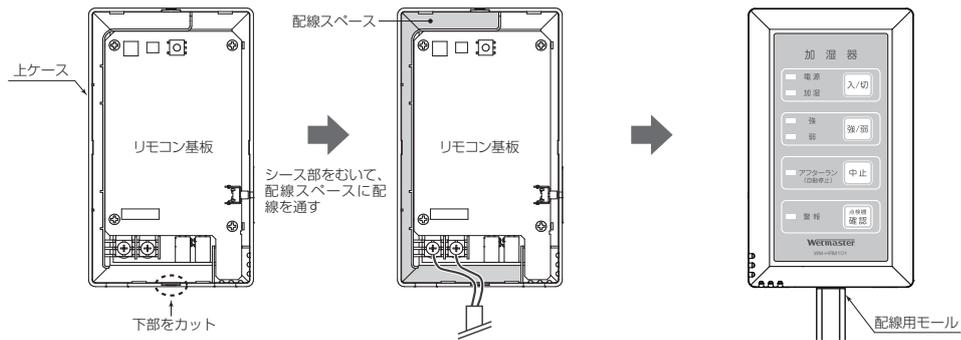
- ①配線方向にあわせてニッパなどで上ケースの薄肉部を切り取り、ヤスリなどでバリをとってください。その際、ケースを割らないように注意して作業してください。
- ②配線の引き込み方向にあわせてリモコンスイッチケース内に入るケーブルのシース部をむき、下図のように配線を回してください。
- ③配線を挟まないように注意して、壁面に取り付けた下ケースに上ケースをはめ合せてください。また、露出配線は上ケースが外せるように注意して配線用モール(客先ご用意)などで処理してください。

【下方引き込みの場合】

標準リモコンスイッチの場合

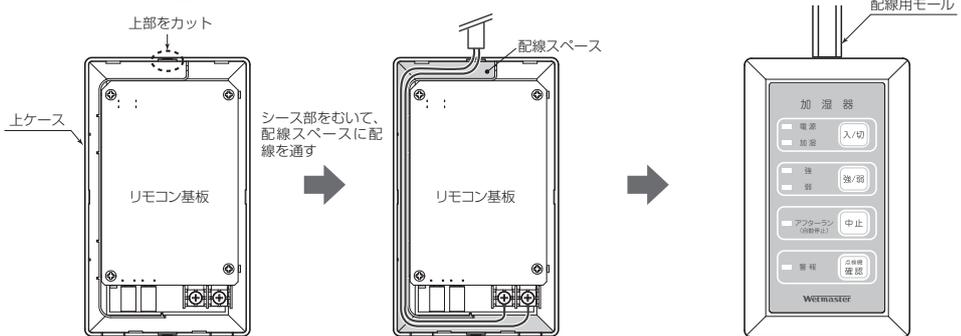


ヒューミ付リモコンの場合

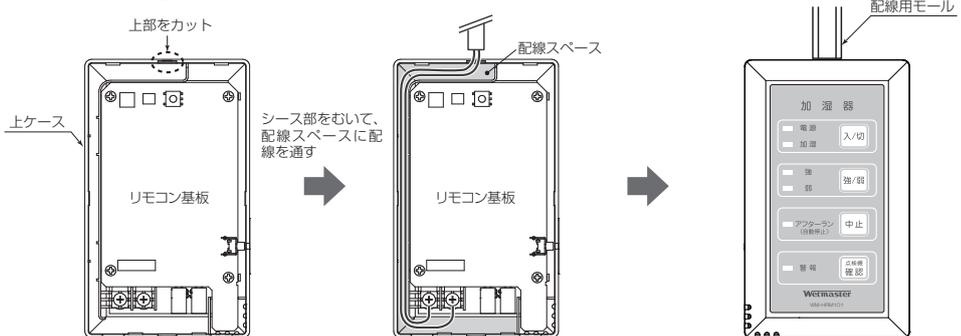


【上方引き込みの場合】

標準リモコンスイッチの場合



ヒューミ付リモコンの場合



2-2 給排水配管

注意

配管は必ず保温する

❗ 保温しないと結露による水もれの原因になります。

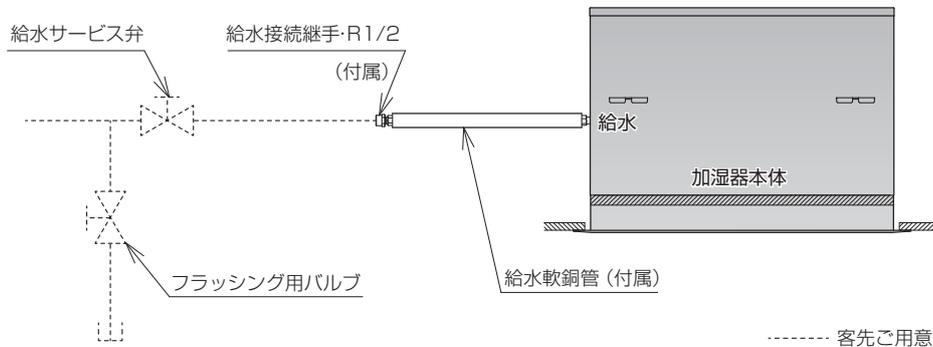
上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工業者が施工する

❗ 本加湿器は給水器具等の認証品です（第三者認証品）。上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工業者が施工し、当該自治体（水道事業管理者）などで指定された給水配管材料をご使用ください。

2-2-1 給水配管

- 加湿器に使用する供給水は、必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水をご使用ください（上水道の使用を推奨します）。飲料水の水質基準を満足した水でも、地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水を利用した水の使用では、その含有成分の影響で早期のスケール発生やスケール飛散が生じる場合がありますのでご注意ください。また、軟水器処理水および軟水器処理水と地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水との混合水は使用しないでください。軟質のスケールが析出し、飛散することがあります。

図-14 給水配管要領



※加湿器への給水配管には、給水サービス弁およびフラッシング用バルブをメンテナンス上、必ず設けてください。図は一例です。現場の都合に応じてフラッシングが行えるように配管してください。

※加湿器の運転を長期休止する場合、点検などやむを得ず電源を OFF とする場合には、給水サービス弁を閉じるなど、万一の場合にも水が流れて水もれ事故にならないようにしてください。

- ドレン排水用ポンプはレベルセンサ（電極ピン）により水位を検知して運転・停止しますので純水は使用できません。
- 各加湿器ごとに給水サービス弁、フラッシング用バルブを点検口から手の届く場所に設置してください。
- 配管に結露が生じないよう、必ず保温してください。
- 配管の管末にはフラッシング用バルブやプラグを取り付けるなどして、施工後にもフラッシングが行えるように現場の都合に応じて配管してください。
- フラッシング用バルブ後に配管を接続する場合、クロスコネクションとにならないよう処置してください。
- 給水配管と加湿器本体を接続する前には通水して必ずフラッシング（配管のブロー）を行い、配管内の汚れや異物が加湿器に流入しないようにしてください。

- 給水軟銅管の接続はリングジョイント式です。図-15を参照して、水もれないように確実に接続してください。客先配管との接続は、付属の給水接続継手（R1/2）を使用します。

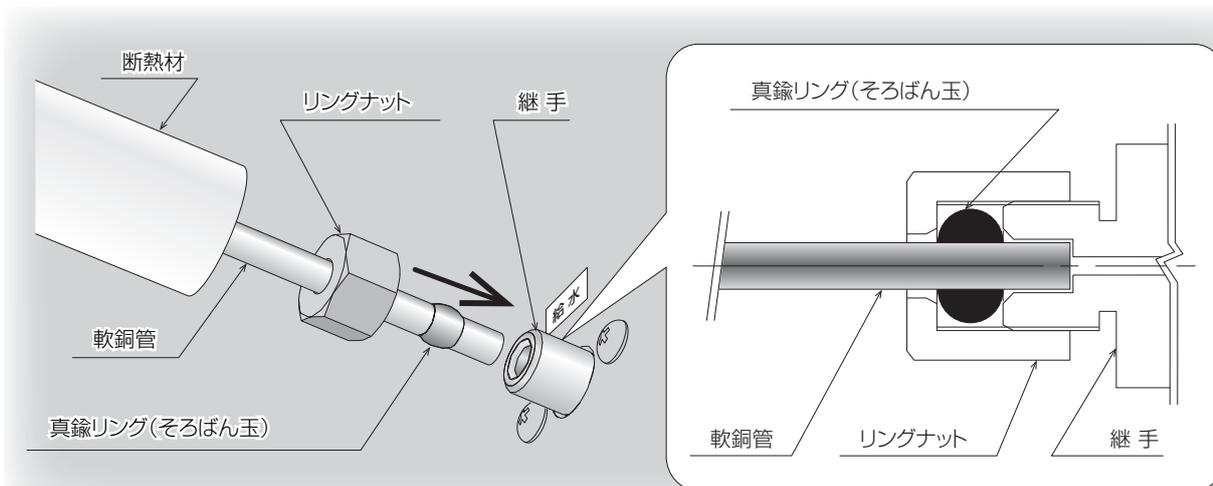


注意

軟銅管は継手部付近からの急な曲げ加工は行わない

- ❗ 水もれの原因になります。

図-15 給水軟銅管の接続



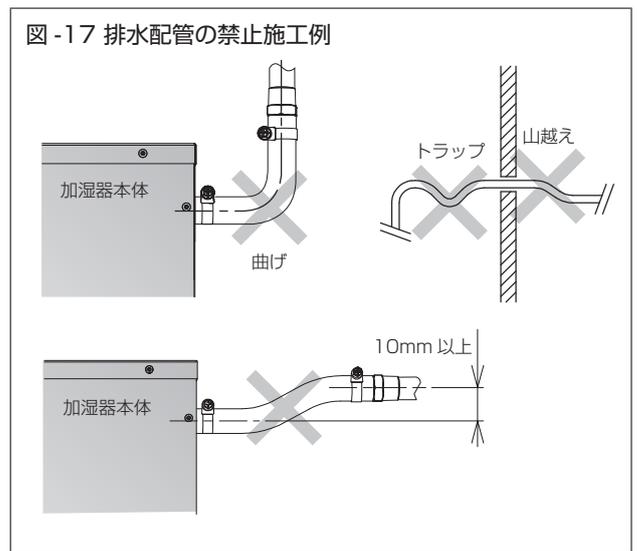
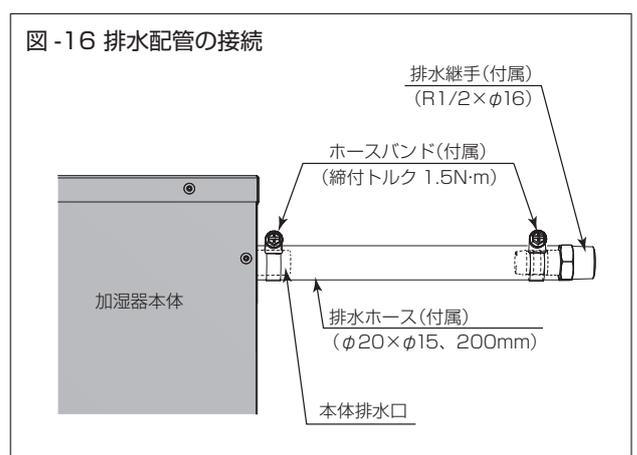
※軟銅管は継手の奥までまっすぐにしっかりと差し込み、必ず2本のレンチを使ってナットを締めてください（付属の給水接続継手側）。

※リングナットの締付トルクは10N・m程度としてください。

- リングジョイント部分には、付属のリングジョイント用断熱材を巻き付け、バンドで固定してください。
- 給水配管の施工に配管シーラントを使用する場合、配管シーラントメーカーの取扱上の注意に準拠してお願いします。また、十分なシーラント乾燥時間を確保してください。塗布量が多かったり乾燥が不十分な状態で通水すると、シーラントが給水に混ざる形で加湿器本体内に流入することになり、加湿器内でのシーラント固化により故障の原因になります。また、配管シーラントには有機溶剤成分が含まれているため、加湿器に流入した場合は構成部品に悪影響を及ぼすことがあります。加湿器への通水の前には、縦配管のフラッシングのほか、加湿器給水配管管末のフラッシング用バルブ等から十分なフラッシングを実施し、フラッシング実施後の水が無色透明、無臭であることを確認してください。

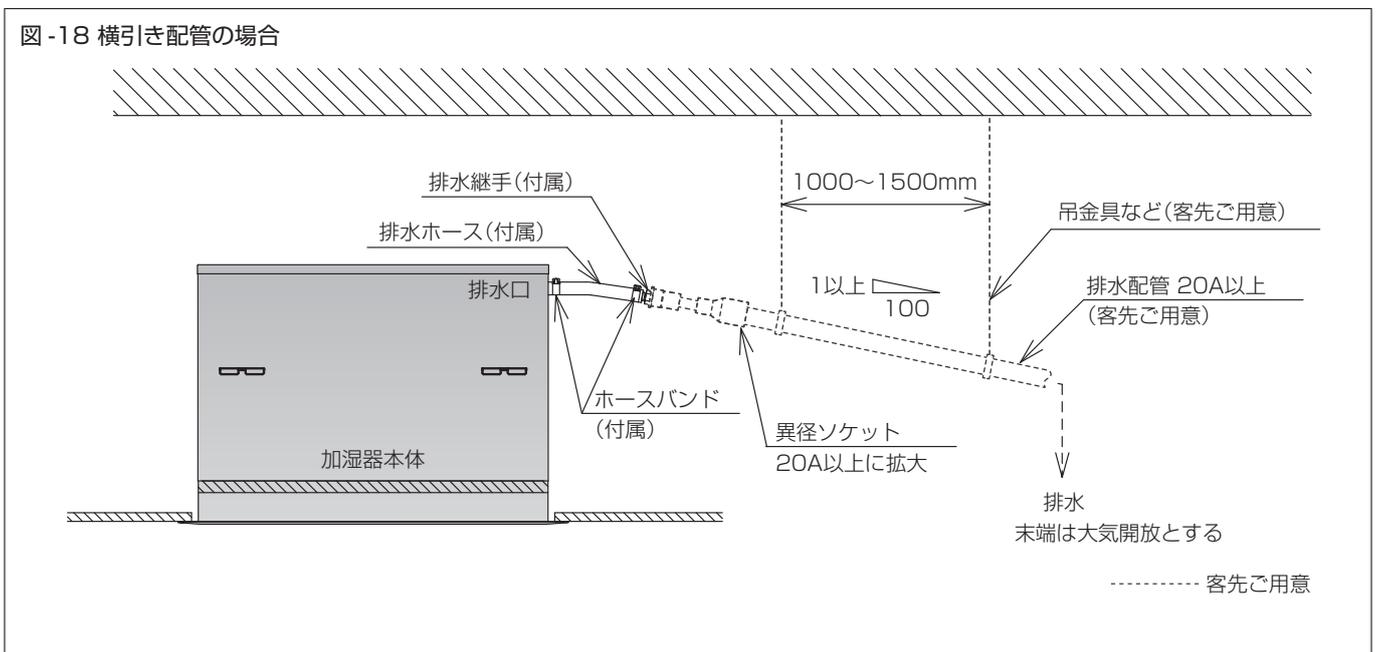
2-2-2 排水配管

- 排水配管の接続は付属の排水ホース、排水継手、ホースバンドを必ず使用してください。
- 排水ホースは本体排水口および排水継手ホース口の根元までしっかり差し込んで、付属のホースバンドで差し込み中央部に固定してください(図-16)。ホースバンドの締め付けトルクは $1.5\text{N}\cdot\text{m}$ 程度としてください。強く締めすぎるとホースバンド、ホース、本体排水口破損による水もれの原因になります。
- 排水口に排水ホースを接続する際は、排水ホースに有機溶剤(接着剤など)は使用しないでください。排水口が劣化し、不具合に至るおそれがあります。
- 排水ホースには負荷が加わらないよう施工してください(図-17)。曲げたり・ねじったり・引っ張ると、水もれの原因になります。
- 排水配管は排水口、排水ホースに荷重がかからないようにしてください。また、排水配管がたるまないように $1\sim 1.5\text{m}$ 間隔で支持し、各加湿器ごとに単独に配管してください。
- 排水配管は結露を防止するため保温処理を施してください。
- 排水配管途中に山越えやトラップを作らないように施工してください(図-17)。排水不良の原因となります。また、配管途中にエア抜きは設けないでください。



【横引き配管の場合】

- 横引き配管の場合、異径ソケットなどを使用して 20A 以上とし、必ず $1/100$ 以上の先下がり勾配・大気開放としてください(図-18)。
- 排水勾配が十分に取れない場合は、排水管を立ち上げて施工してください(P.16 図-19 参照)。

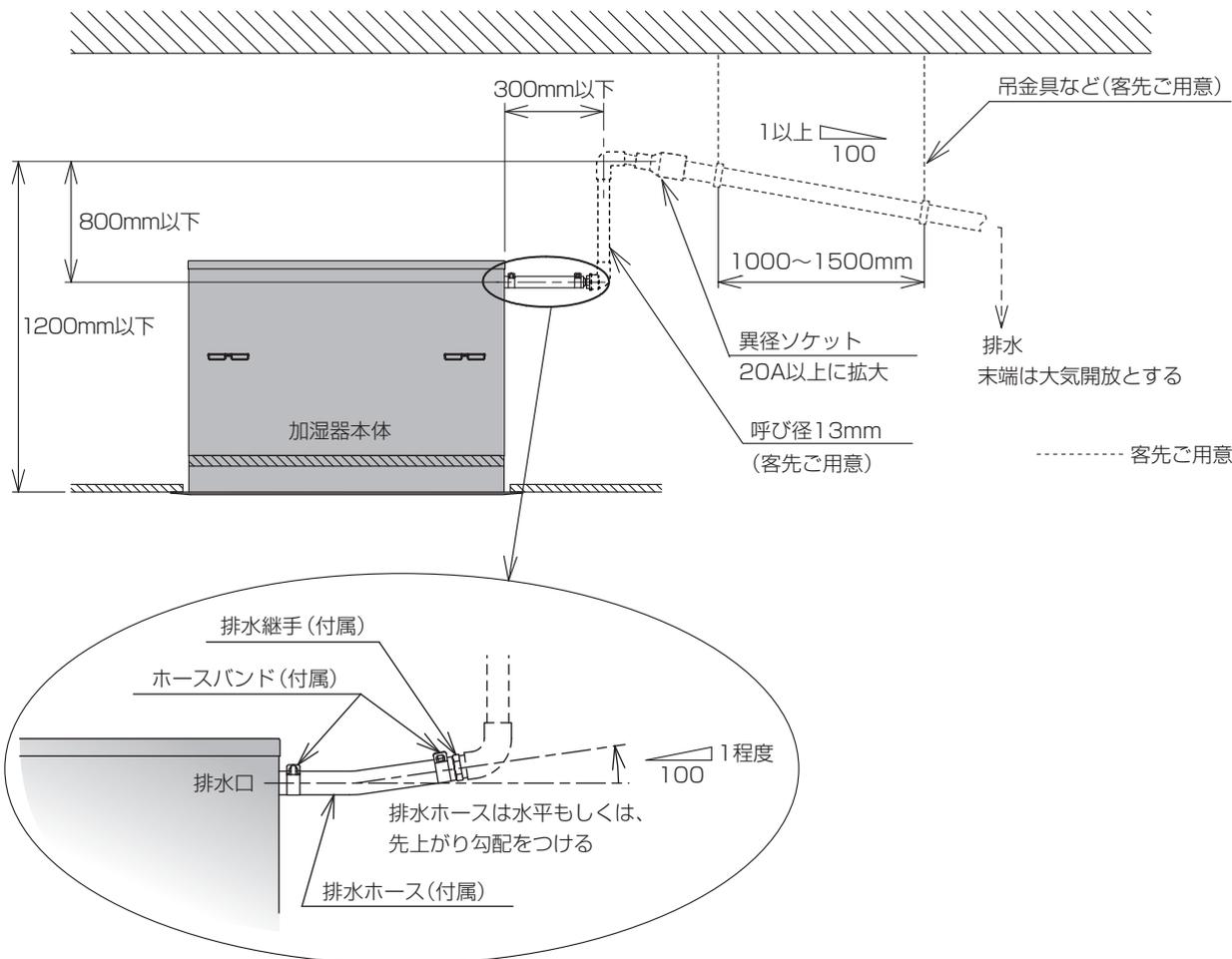


【排水配管を立ち上げる場合】

 注意	立ち上げ配管は指定の塩ビ管またはホースを使用し、垂直に施工する
	 正しく施工されない場合、水もれの原因になります。
	配管立ち上げ高さは 800mm 以下（天井面から 1200mm 以下）とし、本体より水平方向に 300mm 以下で垂直に立ち上げる
	 規定以上に立ち上げた場合、ドレンポンプ停止時にドレン水の逆流による高水位警報発報や水もれなど不具合発生の原因になります。
	排水配管を立ち上げる場合、空気だまりができないよう施工する
	 空気だまりができるとポコポコ音など異音の原因になります。

- 排水配管を立ち上げる場合、立ち上げ配管は塩ビ管（呼び径 13mm）またはホース（内径φ 15）を使用してください。使用しなかった場合、排水量が減少し、排水不良となる原因になります。
- 配管立ち上げ高さは 800mm 以下（天井面から 1200mm 以下）とし、本体より水平方向に 300mm 以下で垂直に立ち上げてください。規定以上に立ち上げた場合、ドレンポンプ停止時にドレン水の逆流による高水位警報発報や水もれなど不具合発生の原因になります。
- 排水配管を立ち上げる場合、空気だまりができないよう排水ホースは水平もしくは若干の上り勾配（1/100 程度）を付け、排水ホースに折れや潰れがないようにしてください。空気だまりができるとポコポコ音など異音の原因になります。
- 立ち上げ以後の横引き配管は異径ソケットなどを使用して 20A 以上とし、必ず 1/100 以上の先下がり勾配・大気開放としてください。

図 -19 立ち上げ配管の場合



2-3 電気配線

警告

電気工事は、電気工事が「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工し、必ず専用回路とし、定格の電圧・ブレーカを使用する

❗ 電気回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。

各配線の接続部にケーブルの外力が加わらないように固定する

❗ 施工不備があると、感電、火災の原因になります。

端子台への各配線接続には絶縁丸型端子 (M4 ねじ用相当) を使用し、1P あたりの接続は 2 端子までとする

❗ 3 端子以上接続すると接触不良となり、発煙、火災の原因になります。

端子台に接続する絶縁丸型端子は、電線径に適合するものを使用する

❗ 適合しないものを使用すると線の抜けや接触不良を起こし、感電、火災の原因になります。

アース接続 (D 種接地工事) を行う

❗ アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

注意

端子台ねじは、締付トルク 0.5N・m で締め付ける

❗ インパクトドライバ等で締め付けた場合、端子台破損の原因になります。

規定の電源電圧を供給する

❗ 供給電源は AC100V です。事前に供給電源の種類の確認と該当する端子が AC100V であることを確認し、適切な線材を使用してください。

2-3-1 共通事項

- 電気配線は客先ご用意となります。加湿器電源として専用回路を使用してください。
- 現場の指示等をよくご確認のうえ、確実な電気工事をお願いします。配線にあたっては、表 1 に該当する「結線要領図」を参照してください。使用する加湿器とリモコンスイッチの組み合わせにより配線が異なりますのでご注意ください。
- 加湿器元電源には必ず漏電ブレーカを設けてください。漏電事故防止および保守点検作業時の安全のため必要です。
- リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。リモコンスイッチ 1 ヶで加湿器本体 10 台まで同時制御を行うことができます。
- 1 つの制御グループに複数台の VCJ2200A を使用する場合、組み合わせによって一部対応できない制御方法があります。また対応可能な制御の場合でも、別途設定が必要になります。詳細につきましては別冊の設定要領書を参照してください。
- 電源ラインを加湿器端子台で渡らせる場合は、端子台定格容量を超えないよう 10 台以下としてください。
- リモコンスイッチの配線は、P.11 「2-1-3 リモコンスイッチの取付と配線要領」を参照してください。
- リモコンスイッチ配線 (リモコンスイッチ⇄本体 1) および本体渡り線 (本体 1 ⇄本体 2…) の信号配線の総配線長は 100m 以内としてください。
- リモコンスイッチと加湿器本体とを結線した後、加湿器の運転前にはアドレス設定が必要です。アドレス設定を行わないと運転することが出来ません。別冊の設定要領書に従ってアドレス設定を行ってください。
- 運転信号および警報信号を使用する場合は、別冊の設定要領書を参照し設定を行ってください。
- 外部指令信号入力で発停を行う場合には、別冊の設定要領書を参照し設定を行ってください。グループを一括制御する場合は表 1 に該当する「結線参考図」を参照し、結線してください。
- 強電の電源ラインと弱電の信号ライン (C1, C2, L1, L2, 4, 5, 6) は分けて配線してください。同一管路内に納めて配線すると、誤動作の原因になります。

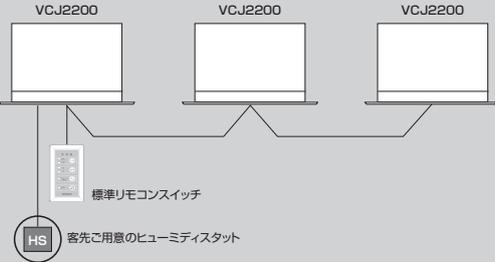
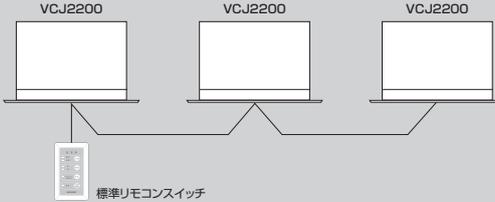
表 1 加湿器本体とリモコンスイッチの各組み合わせにおける各種図面の参照ページ

各種図面	加湿器本体とリモコンスイッチの組み合わせ			
	VCJ2200、標準リモコンスイッチ	VCJ2200、ヒューミ付リモコン	VCJ2200A、標準リモコンスイッチ	VCJ2200A、ヒューミ付リモコン
結線要領図	P.19	P.21	P.23	P.25
結線参考図	P.20	P.22	P.24	P.26

2-3-2 VCJ2200 と標準リモコンスイッチの組み合わせで使用する場合

● 客先ご用意のヒューミディスタット(外部ヒューミ)については表 2 を参照し、配線を行ってください。

表 2 ヒューミディスタット (外部ヒューミ) 有無における注意事項

ヒューミディスタット(外部ヒューミ)の有無	注意事項
<p>ヒューミディスタット (外部ヒューミ) を使用する場合</p>  <p>VCJ2200 VCJ2200 VCJ2200</p> <p>標準リモコンスイッチ</p> <p>HS 客先ご用意のヒューミディスタット</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1つのリモコンスイッチで複数台制御する場合、ヒューミディスタットを複数個使用して各加湿器を個別に制御することはできません。必ずヒューミディスタットとリモコンスイッチは 1 対 1 となるようにしてください。 ヒューミディスタットは湿度低下で接点が ON となる形式で、接点容量 100V・2A 以上のものをご用意ください。ヒューミディスタット 1 個で加湿器 10 台まで同時制御を行います。 ヒューミディスタットは、P.19「WM-VCJ2200 結線要領図」を参照し、「加湿器本体 1」の端子 L1、L2 (無電圧接点) に接続してください。 1つのリモコンスイッチで複数台制御する場合でも端子 L1、L2 への接続は「加湿器本体 1」のみで全数の運転制御ができます。
<p>ヒューミディスタット (外部ヒューミ) を使用しない場合</p>  <p>VCJ2200 VCJ2200 VCJ2200</p> <p>標準リモコンスイッチ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ヒューミディスタットを使用しない場合、P.19「WM-VCJ2200 結線要領図」を参照し、「加湿器本体 1」の端子 L1、L2 を短絡してください。L1、L2 が短絡されない場合、加湿器は運転しません。 1つのリモコンスイッチで複数台制御する場合でも端子 L1、L2 の短絡は「加湿器本体 1」のみで全数の運転制御ができます。

2-3-3 停電試験を行う場合

 注意	<p>加湿器の停電試験を行う際は、必ず給水サービス弁を閉める</p> <p>❗ 万一、電磁弁が故障している場合、通水状態で電源を遮断するとドレン排水用ポンプが作動せず、漏水事故の原因になります。</p>
---	--

- 本加湿器の排水は、ドレン排水用ポンプによって行われます。停電試験を行う際は、あらかじめ給水サービス弁を閉め、加湿器への給水を停止してください。
- 本加湿器には停電時の自己保持機能はありません。運転中の加湿器が停電により停止した場合、復電時の自動復帰は行いません。リモコンスイッチまたは外部指令信号による手動での運転復帰が必要です。
- 瞬間停電の場合は、50Hz では 0.02 秒以下で運転を保持し、0.02 秒を超えて停電した場合停止します。60Hz では 0.0166 秒以下であれば運転を保持し、0.0166 秒を超えて停電した場合停止します。

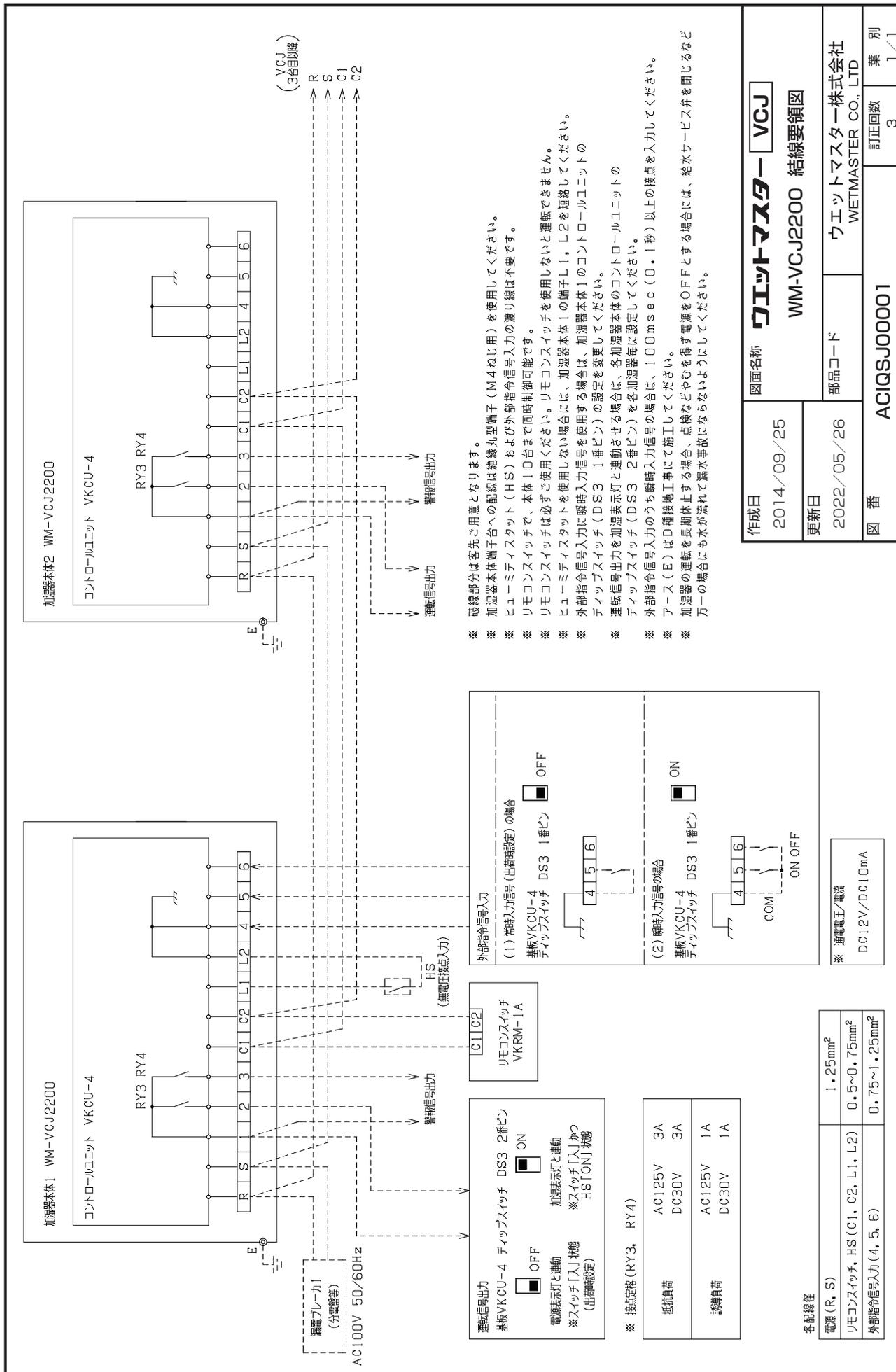
3 各種図面

施工要項の確認事項

施工

各種図面

仕様

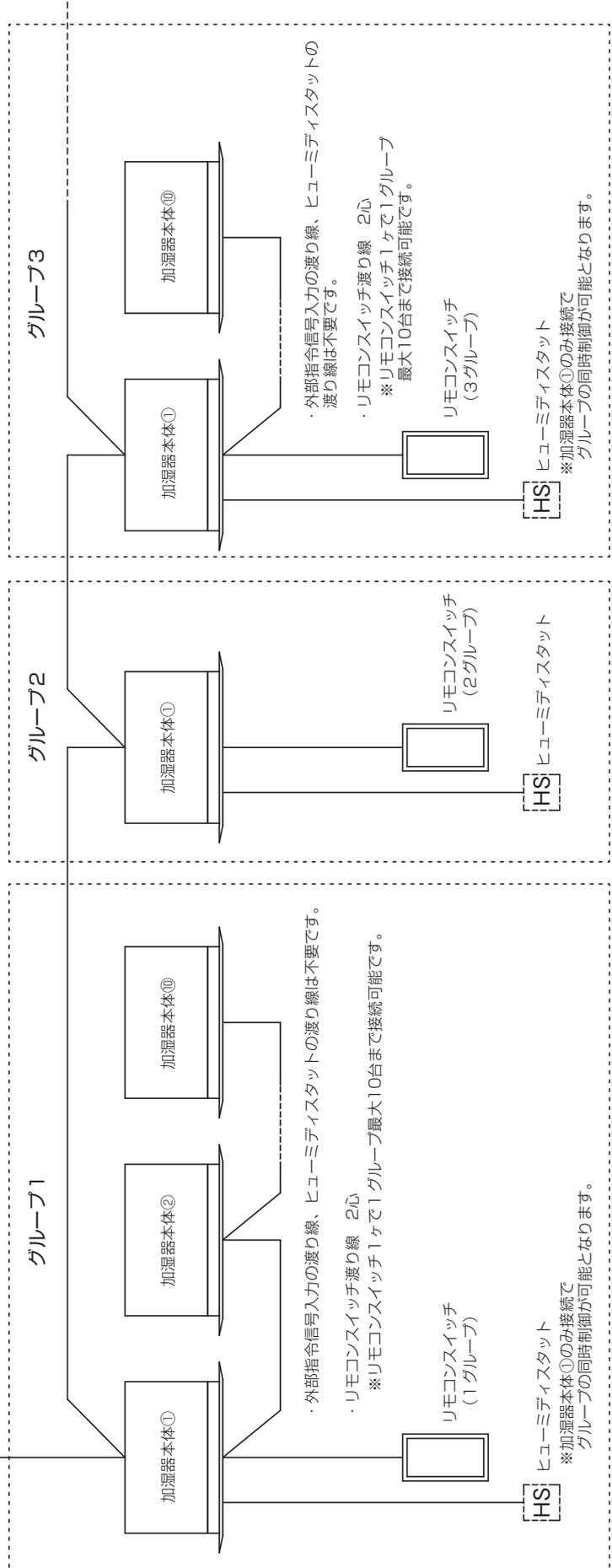


作成日	2014/09/25	図面名称	ウエットマスター VCJ
更新日	2022/05/26	部品コード	WM-VCJ2200 結線要領図
図番	ACIQSJ00001	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
		訂正回数	3
		葉別	1/1

●てんまい加湿器 WM-VCJ2200 複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例

※外部指令信号線の配線径と総配線長から、接続可能な最大グループ数が変わります。
下表の「一括制御できるグループ数」を参照してください。

外部指令信号入力
(常時接点または瞬時接点)



必ず1グループに1つリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。

外部指令信号入力は常時入力（2心×1本）または瞬時入力（3心×1本）、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。

※加湿器本体コントロールユニットのデフォルトスイッチで常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっております。

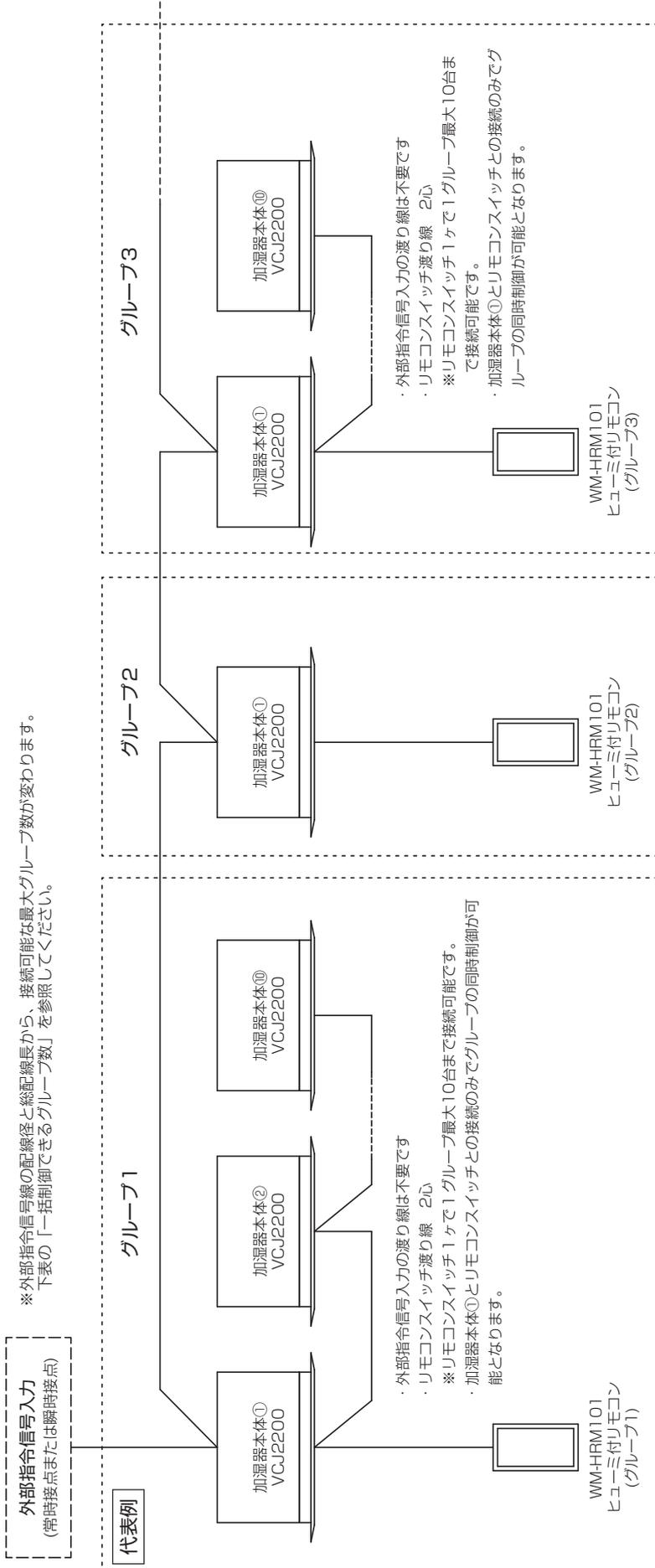
一括制御できるグループ数

※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合1A以上、100グループまで接続の場合1.5A以上、200グループまで接続の場合3A以上としてください。

外部指令信号線	総配線長	1000m	1500m	2000m
	配線径	0.75mm ²	1.40mm ²	1.25mm ²
		140グループ	90グループ	70グループ
		200グループ	160グループ	115グループ

作成日	2014/09/25	図面名称	ウエットマスター VCJ
更新日	2014/11/04	部品コード	WM-VCJ2200 結線参考図
図番	ACIQSJ00002	ウエットマスター株式会社	WETMASTER CO., LTD
		訂正回数	2
		業別	1/1

●てんまい加湿器 WM-VCJ2200 複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例



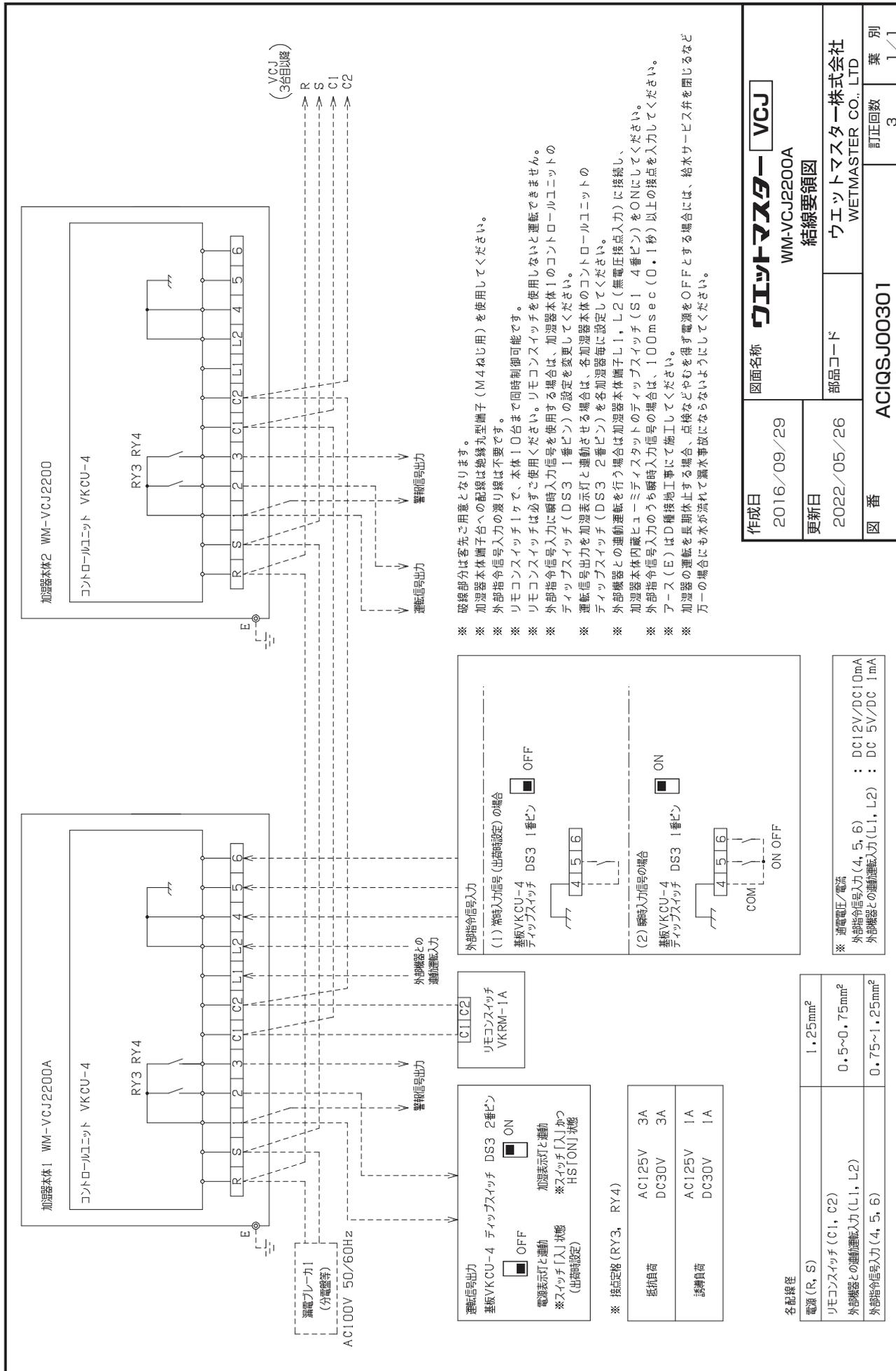
必ず1グループにつきリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。
 外部指令信号入力は常時入力 (2心×1本) または瞬時入力 (3心×1本)、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。
 ※加湿器本体コントロールユニットのデフォルトスイッチで常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっています。

一括制御できるグループ数

※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合1A以上、100グループまで接続の場合1.5A以上、200グループまで接続の場合3A以上としてください。

外部指令信号線	総配線長	1000m	1500m	2000m
	配線径	140グループ	90グループ	70グループ
		200グループ	160グループ	115グループ

作成日	2016/08/24	図面名称	加湿器マスター VCJ
更新日	2016/08/24	部品コード	WM-VCJ2200 (ヒューミ付リモコン付属)
図番	ACIQSJ00202	結線参考図	
		ウエットマスター株式会社	業別
		WETMASTER CO., LTD	訂正回数
			0
			1/1

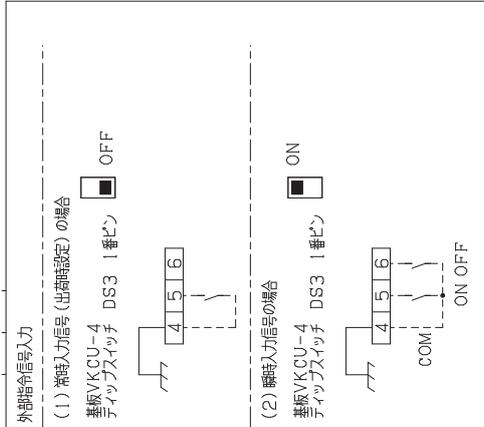


作成日	2016/09/29	図面名称	ウエットマスター V.C.J
更新日	2022/05/26	部品コード	WM-VCJ2200A
図番	ACIQSJ00301	結線要領図	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD
		訂正回数	3
		葉別	1/1

各配線径

電源 (R, S)	1.25mm ²
リモコンスイッチ (C1, C2)	0.5~0.75mm ²
外部機器との連動駆入力 (L1, L2)	0.75~1.25mm ²

※ 通電電圧/電流
 外部指令信号入力 (4, 5, 6) : DC12V/DC10mA
 外部機器との連動駆入力 (L1, L2) : DC 5V/DC 1mA



※ 接点定格 (RY3, RY4)

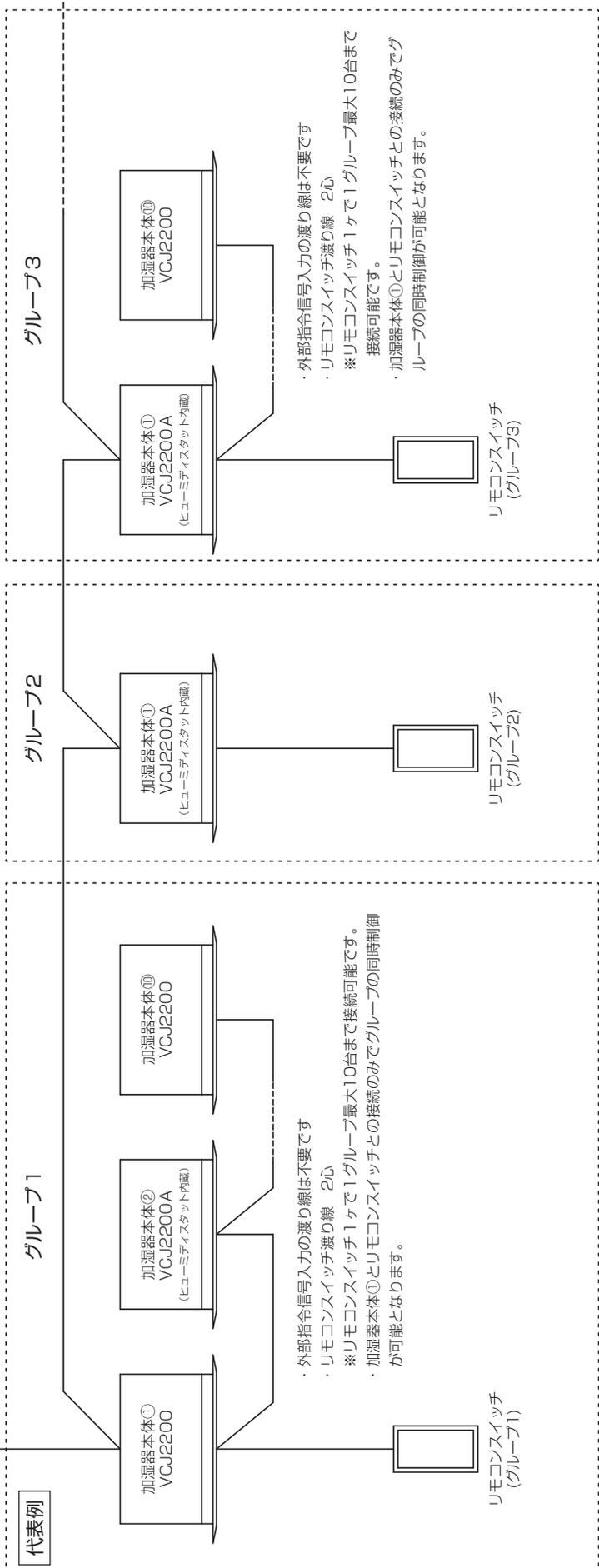
運転信号出力	AC125V	3A
基板VKCU-4 ティップスイッチ DS3 2番ピン	DC30V	3A
OFF		
電源表示灯と連動	AC125V	1A
※スイッチ「入」状態 (出荷時設定)	DC30V	1A

抵抗負荷	AC125V	3A
誘導負荷	AC125V	1A
	DC30V	1A

●てんまい加湿器 WM-VCJ2200A 複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例

外部指令信号入力
(常時接続または瞬時接続)

※VCJ2200Aは1グループに1台のみ使用可能です。
 ※外部指令信号線の配線径と総配線長から、接続可能な最大グループ数が変わります。
 下表の「一括制御できるグループ数」を参照してください。



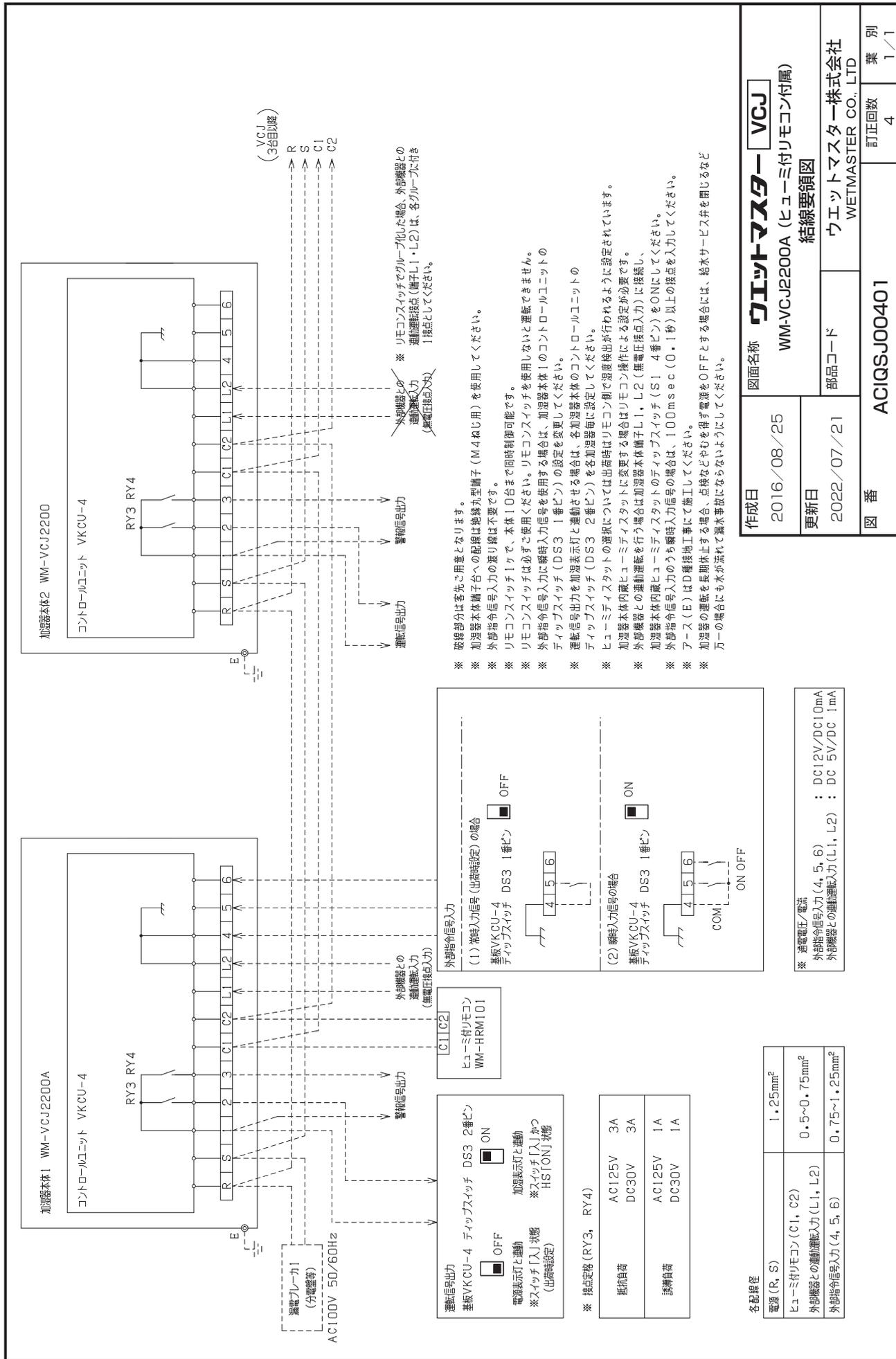
必ず1グループに1つリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。
 外部指令信号入力は常時入力(2心×1本)または瞬時入力(3心×1本)、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。
 ※加湿器本体コントロールユニットのディップスイッチで常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっています。

一括制御できるグループ数

※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合1A以上、100グループまで接続の場合1.5A以上、200グループまで接続の場合3A以上としてください。

外部指令信号線	総配線長	1000m	1500m	2000m
	配線径	0.75mm ²	1.25mm ²	1.5mm ²
		140グループ	90グループ	70グループ
		200グループ	160グループ	115グループ

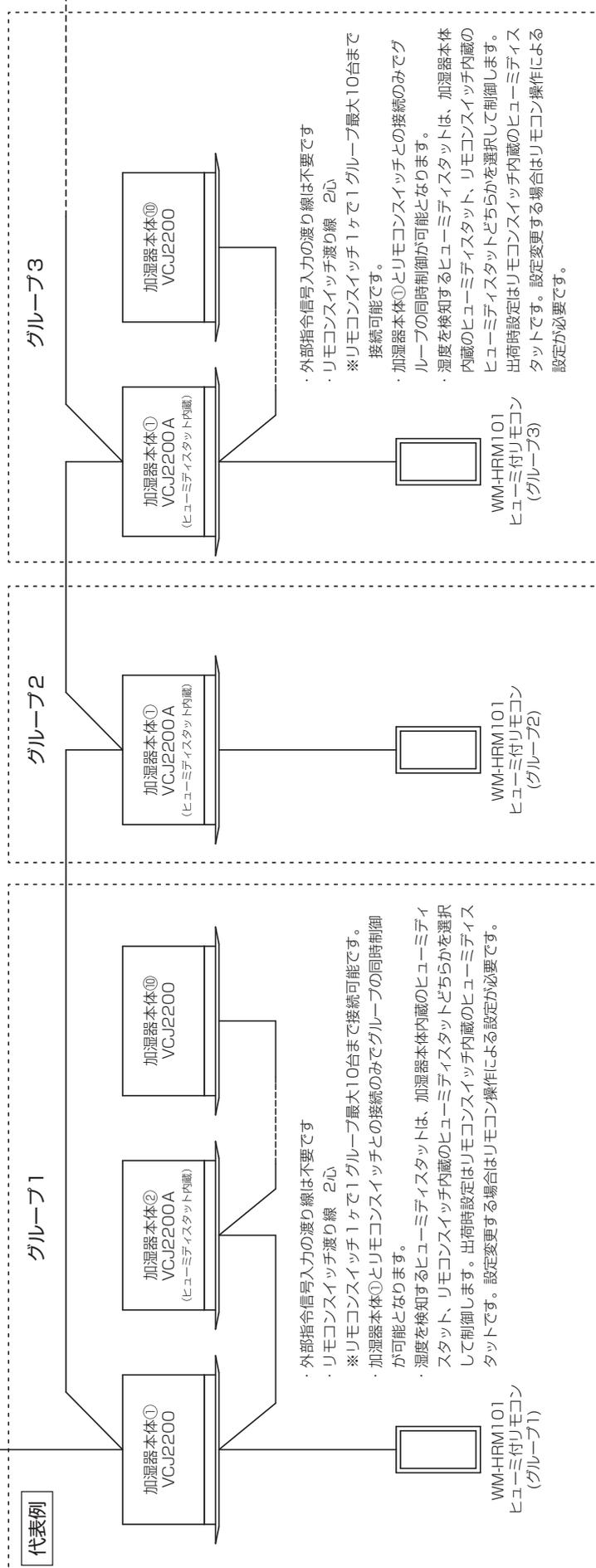
作成日	2016/09/29	画面名称	ウエットマスター VCJ
更新日	2016/09/29	部品コード	WM-VCJ2200A
図番	ACIQSJ00302	結線参考図	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD
		訂正回数	0
		業別	1/1



●てんまい加湿器 WM-VCJ2200A 複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例

外部指令信号入力
(常時接点または瞬時接点)

※VCJ2200Aは1グループに1台のみ使用可能です。
 ※外部指令信号線の配線径と総配線長から、接続可能な最大グループ数が変わります。
 下表の「一括制御できるグループ数」を参照してください。



必ず1グループに1つリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。
 外部指令信号入力は常時入力(2心×1本)または瞬時入力(3心×1本)、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。
 ※加湿器本体コントロールユニットのディップスイッチで常時入力または瞬時入力または常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっています。

一括制御できるグループ数

※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合1A以上、100グループまで接続の場合1.5A以上、200グループまで接続の場合3A以上としてください。

外部指令信号線	総配線長	1000m	1500m	2000m
	配線径	0.75mm ²	140グループ	90グループ
		1.25mm ²	200グループ	160グループ
				70グループ
				115グループ

作成日	2016/08/24	画面名称	ウエットマスター VCJ
更新日	2016/08/24	WM-VCJ2200A (ヒューミ付リモコン付)	結線参考図
図番	ACIQSJ00402	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD
		訂正回数	0
		葉別	1/1

4 仕様

4-1 VCJ2200 (標準仕様)

機種・型式	滴下浸透気化式加湿器 [VCJ]	
商品名・型番	「てんまい加湿器」 WM-VCJ2200	
標準加湿能力	ファン強：2.2/2.2kg/h (50/60Hz) ファン弱：1.2/1.1kg/h (50/60Hz)	
	* 上記は、ファン強：吸込空気条件 23℃・40%RH、ファン強時 ファン弱：吸込空気条件 23℃・40%RH、ファン弱時の値です。 標準加湿能力は吸込空気条件により変化しますので、吸込空気条件が異なる場合は仕様書の加湿能力線図でご確認ください。	
定格風量	ファン強：570/570m ³ /h (50/60Hz) ファン弱：300/280m ³ /h (50/60Hz)	
運転音	ファン強：40/40dB (A) (50/60 Hz) ファン弱：23/21dB (A) (50/60Hz)	
風量切替	リモコンスイッチ強・弱二段切替	
定格電源	AC100V 50/60Hz	
定格消費電力	83/97W (ファン強、ドレン排水用ポンプ作動時、50/60Hz)	
運転時質量	29kg	
化粧グリル色	ホワイト (近似色 マンセル 6.5Y9.5/0.5)	
リモコンスイッチケース色	ホワイト (近似色 マンセル 5Y9/0.5)	
ドレン排水用ポンプ能力	最大 0.9ℓ /min (最大揚程 800mm、天井面から 1,200mm の時)	
電圧許容範囲	± 10%以内	
使用条件	本体周囲温湿度	5～40℃ (凍結しないこと) 80% RH 以下
	吸込空気温度	5～40℃ (天井内本体周囲温度との差 10℃以内のこと)
	給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水
	給水圧力、温度	0.05～0.5MPa、5～30℃
給水方式	間欠給水方式 (TSS 制御 / 給水量 0.094ℓ /min ± 20%) * 運転開始時は加湿モジュールの湿潤・洗い流しのためにファンを停止した状態で 10 分間連続給水を行い、その後間欠給水となりファンを運転させ加湿を行います。	
瞬間最大排水量	約 0.9ℓ /min (ドレン排水用ポンプ始動時の瞬間流量)	
安全保護機能	1) ドレンパン高水位検知 (運転停止 / 警報表示灯点灯) 2) 漏水検知 (運転停止 / 警報表示灯点灯) 3) 給水電磁弁リーク検知 (運転停止 / 警報表示灯点灯) 4) ドレン排水用ポンプ排水異常検知 (運転停止 / 警報表示灯点灯)	

4-2 VCJ2200A（ヒューミディスタット内蔵仕様）

機種・型式	滴下浸透気化式加湿器 VCJ	
商品名・型番	「てんまい加湿器」WM-VCJ2200A	
標準加湿能力	ファン強：2.2/2.2kg/h (50/60Hz) ファン弱：1.2/1.1kg/h (50/60Hz)	
	* 上記は、ファン強：吸込空気条件 23℃・40%RH、ファン強時 ファン弱：吸込空気条件 23℃・40%RH、ファン弱時の値です。 標準加湿能力は吸込空気条件により変化しますので、吸込空気条件が異なる場合は仕様書の加湿能力線図でご確認ください。	
定格風量	ファン強：570/570m ³ /h (50/60Hz) ファン弱：300/280m ³ /h (50/60Hz)	
運転音	ファン強：40/40dB (A) (50/60 Hz) ファン弱：23/21dB (A) (50/60Hz)	
風量切替	リモコンスイッチ強・弱二段切替	
定格電源	AC100V 50/60Hz	
定格消費電力	83/97W (ファン強、ドレン排水用ポンプ作動時、50/60Hz)	
運転時質量	29kg	
化粧グリル色	ホワイト (近似色 マンセル 6.5Y9.5/0.5)	
リモコンスイッチケース色	ホワイト (近似色 マンセル 5Y9/0.5)	
ドレン排水用ポンプ能力	最大 0.9ℓ /min (最大揚程 800mm、天井面から 1,200mm の時)	
電圧許容範囲	± 10%以内	
使用条件	本体周囲温湿度	5～40℃ (凍結しないこと) 80% RH 以下
	吸込空気温度	5～40℃ (天井内本体周囲温度との差 10℃以内のこと)
	給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水
	給水圧力、温度	0.05～0.5MPa、5～30℃
給水方式	間欠給水方式 (TSS 制御 / 給水量 0.094ℓ /min ± 20%) * 運転開始時は加湿モジュールの湿潤・洗い流しのためにファンを停止した状態で 10 分間連続給水を行い、その後間欠給水となりファンを運転させ加湿を行います。	
瞬間最大排水量	約 0.9ℓ /min (ドレン排水用ポンプ始動時の瞬間流量)	
湿度設定範囲	35～70% RH * 出荷時のヒューミディスタット設定湿度は 40% RH です。設定湿度は、加湿器本体内ヒューミディスタットユニットのディップスイッチの切り替えにより 5%単位で変更が可能です。	
湿度設定ヒステリシス	－ 5% RH	
安全保護機能	1) ドレンパン高水位検知 (運転停止 / 警報表示灯点灯) 2) 漏水検知 (運転停止 / 警報表示灯点灯) 3) 給水電磁弁リーク検知 (運転停止 / 警報表示灯点灯) 4) ドレン排水用ポンプ排水異常検知 (運転停止 / 警報表示灯点灯)	

4-3 ヒューミ付リモコン

機種・型式・型番	ヒューミ付リモコン WM-HRM101
本体周囲温湿度	5～40℃（凍結しないこと） 30～90% RH以下（結露しないこと） *当リモコンスイッチは室内専用です。室内に設置する場合においても、湯気、水しぶき、油などのかからない場所へ設置してください。
湿度設定範囲	35～70% RH *出荷時のヒューミディスタット設定湿度は40% RHです。設定湿度はリモコンスイッチ操作により5%単位で変更が可能です。
湿度設定ヒステリシス	－5% RH
リモコンケース色	ホワイト（近似色 マンセル5Y9/0.5）
アドレス設定	加湿器本体とリモコンスイッチの接続時にアドレス設定が必要となります。 *リモコンスイッチのオートアドレス機能により当該リモコンに接続されている本体接続台数を認識、設定します（リモコンスイッチ操作と表示灯の点滅回数で接続台数が確認できます）。

施工前の確認事項

施工

各種図面

仕様



ウェットマスター株式会社

本社営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 WM本社ビル TEL.03-3954-1101

●加湿器のメンテナンス、リニューアルに関するお問い合わせは、最寄りの各拠点へご連絡ください。

保守・サービス営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 カスタマーセンター TEL.03-3954-1110

大 阪 支 店 〒540-0024 大阪市中央区南新町1-1-2 タイムスビル TEL.06-4790-6606

名古屋営業所 〒464-0858 名古屋市千種区千種 1-15-1 ルミナスセンタービル TEL.052-745-3277

仙 台 営 業 所 〒981-3133 仙台市泉区泉中央 3-27-7 TEL.022-772-8121

福 岡 営 業 所 〒812-0004 福岡市博多区榎田 2-1-10 TEL.092-471-0371

- 業務用・産業用各種加湿器
- 流量管理システム機器／エアロQシステム・カラムアイ

<https://www.wetmaster.co.jp>